

悠久の時間が流れる

石の島

～海を越え、日本の礎を築いた せとうち備讃諸島～

石切りの渓谷展望台

所在地：笠岡市北木島町金風呂 金風呂港より徒歩10分。
見学は申込みが必要。
連絡先：0120-68-2120（鶴田石材株式会社）
0120-23-1805（井笠観光株式会社）



岡山県と香川県の間に展開する「備讃諸島」の花崗岩と石切り技術は長きにわたり日本の建築文化を支えてきた。日本の近代化を象徴する日本銀行本店本館などの西洋建築、また古くは近世城郭の代表である大坂城の石垣など、日本のランドマークとなる建造物が、ここから切り出された石で築かれている。備讃諸島には巨石を切り、運び、石と共に生きてきた人たちの希少な文化が息づいている。

日本の建築文化を支え続ける石

日本の近代化が進んだ明治後期から昭和初期にかけて、日本銀行本店本館をはじめ、明治生命館などの日本を代表する近代洋風建築等が建てられたが、そこには瀬戸内海の島々、とりわけ備讃諸島で産まれた花崗岩が使われてきた。

一方で、我が国が世界に誇る石造建造物である、近世城郭の石垣。その代表が、大坂城の石垣である。大坂城は、徳川幕府が西国・北国の大名63藩64家を大動員して、元和6年（1620）から寛永6年（1629）の間に再建した。大名たちは競うように巨大な石を運び込み、壮大な石垣を築き上げた。この石垣にも、遠く離れた備讃諸島から運ばれてきた石材が大量に使われている。



小豆島の山岳霊場



▲空海が開いたとされる小豆島八十八か所には、険しい石崖の洞窟に本尊を祀る山岳霊場がみられる。

所在地：土庄町／小豆島町

石切り寿司



▲日々過酷な重労働をしていた石工たちにふるまわれた食事。小豆島の北部では、今でも祭りなどのハレ食として伝えられている。

取扱場所：大坂城残石記念公園（土庄町小海甲909-1）の売店
価格500円（税込）。予約販売のみ。
連絡先：0879-65-2865

石節（せきぶし） 北木島石切唄（きたぎしまいしきりうた）



▲石節は小豆島で石切の際に唄われていたという。また石切唄は、北木島で受け継がれる作業歌。手作業で石を切っていた時代、石工たちが唄うことで作業効率高めた。いずれも保存会により伝承されている。

伝承地：石節 土庄町／小豆島町（左）
石切唄 笠岡市北木島町（右）

重岩（かさねいわ）



▲小瀬原丁場跡を見下ろす山頂に鎮座する巨石。小瀬石鐘神社のご神体であり、巨石への信仰をうかがわせる。

所在地：土庄町小瀬

甦った映画館「光劇場」



▲昭和20年代から42年（1967年）頃まで営業し、石工たちに娯楽を提供していた旧映画館。現在は北木島の石文化に関する映像上映等に活用されている。

所在地：笠岡市北木島町 7887-52
連絡先：0865-68-2898（北木西公民館）

知ってる!? 悠久の時間が流れる石の島
～海を越え、日本の礎を築いた せとうち備讃諸島～

<https://www.city.kasaoka.okayama.jp/site/japan-heritage/>

〔構成市町〕 笠岡市、丸亀市、土庄町、小豆島町
〔連絡先〕 笠岡市産業部 商工観光課
所在地 岡山県笠岡市中央町 1-1
電話 0865-69-2147

石と共に生きる 生活文化

備讃諸島の島民は太古の時代より、石と共に生きてきた。巨石は島民の精神文化と結びつき、崇拜と祈りの対象となってきた。また、岩肌をくり抜いた山岳霊場には、おかげにあやかるうその地を訪れる人が後をたない。

最盛期、島は石切りから加工、商い、出荷、海運まで石材産業が島内で完結した一大拠点として賑わった。島の石材産業は富を生み、営みは文化と娯楽を島に遺した。



笠島集落

◀本島にある重要伝統的建造物群保存地区。中世には塩飽水軍、江戸時代には塩飽廻船の拠点として栄えた。山城のある丘陵に三方を囲まれつつ、狭い道路が複雑に食い違い、見通しがきかない防衛的な構造を示す一方、マッチョ通り（町通り）と呼ばれる主要道路に沿って町屋形式の家屋が建ち並ぶ集落が、海の民の経済力を物語っている。

所在地：丸亀市本島町笠島
笠島まち並保存センター
9時～16時営業。観覧料大人200円、小人100円
連絡先：0877-27-3828
(月曜、年末年始、1～2月の平日休館)

おのえ 尾上邸



▲江戸時代に廻船問屋として繁栄した面影を残す屋敷。まるで城のような石垣は、島の花崗岩「青木石」を高く積み上げている。

所在地：丸亀市広島町立石

ち はま 千ノ浜の護岸景観



▲丁場から切り出した石を積み出した小さな港。大小の端材を巧みに組み上げた護岸が遺っており、「北木石」の原産地ならではの景観をみせている。

所在地：笠岡市北木島町

石の産地を支えた海運

備讃瀬戸の島は、はげ山、岩場、砂浜など変化に富み、至るところに花崗岩が露出している。島の中で山と海が一体となりコンパクトにまとまっていることが、石切りと石の陸運、海運を容易ならしめた。
瀬戸内海の島々で、採石の発展をもたらした大きな要因は、海であった。島々は海によってつながっていた。海こそが、巨大な石を遠隔地まで運ぶために不可欠な「道」だったのである。
西日本における海上交通の大動脈でもあった瀬戸内海の島々には、海の「道」への入口となる港町が形成された。備讃諸島においても、街路が屈曲し、十字路を形成しない複雑な町割りを残した集落が見られる。

所在地：土庄町甲
土庄港より車で7分。

◀路地が入り組んだ土庄の集落は「迷路のまち」として知られる。西光寺はその象徴的な存在で、境内から町を一望できる。町なかには採石奉公加藤清正ゆかりの屋敷跡も残る。

所在地：土庄町甲
土庄港より車で7分。

「迷路のまち」土庄



真鍋島の集落



▲笠岡諸島の真鍋島では、中世真鍋水軍の拠点にふさわしく、山城のふもとに防衛的な町割りの集落が展開している。真鍋家住宅は、島の集落景観を代表する古民家である。

所在地：笠岡市真鍋島 真鍋島本浦港すぐ。



▼明治25年（1892年）の手作業の時代に始まり、機械化された現在も石切りを続ける北木島の丁場は、高さ100mの断崖となっている。切り出された北木石は東京駅丸ノ内本屋などの重要文化財に使われている。



天狗岩丁場



所在地：小豆島町岩谷
「天狗岩」バス停すぐ。
トイレ有。

大坂城石垣石丁場跡



▲福岡藩黒田家が開いた小豆島岩谷地区の丁場には1600個を超える石が残されており、400年前の採石技術を目の当たりにできる。

大坂城残石資料館



道の駅「大坂城残石記念公園」内にあり。
所在地：土庄町小海甲909-1
入館無料。9時～17時の営業。
定休日は12月29日～1月3日。

石切りの歴史

備讃諸島の島々には平地が少なく、山肌から海岸まで、至るところに巨石がむき出しとなっている。このような特性を活かして、江戸時代以降、良質の花崗岩等が切り出され、城の石垣や建造物に使われるようになっていった。
その400年の歴史が凝縮されているのが、丁場（ちようば）と呼ばれる石切場である。石に鉄製の矢（や）を打ち込み、割り取ることを「切る」という。大きな石を切るためには、石の目を読む高度な技術と、そのための道具が必要である。備讃諸島を巡ると、400年にわたる採石の技術の変遷を、肌で感じる事ができる。